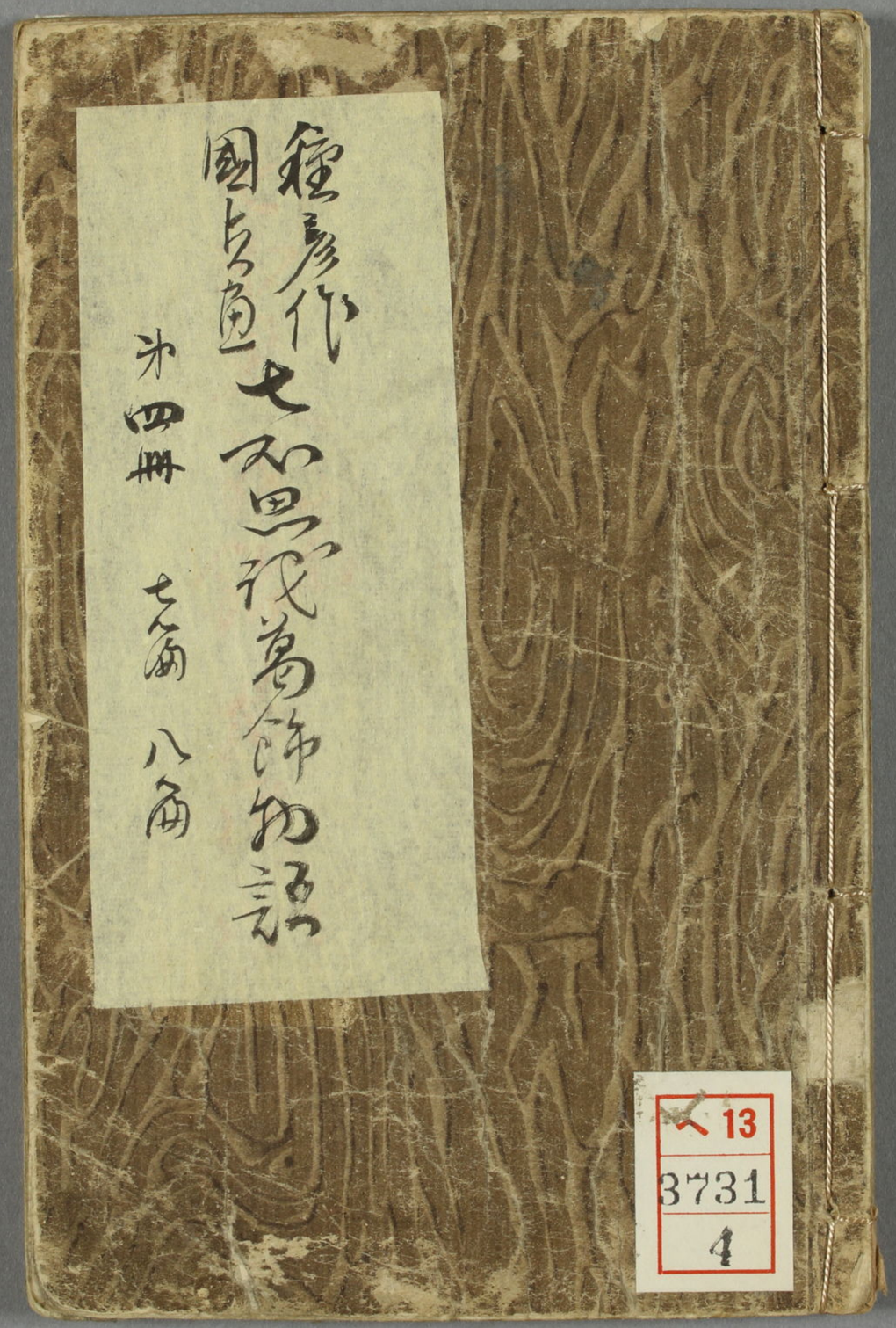

繪彫作
國貞画 七冊
狂歌飾物語
第四冊 七篇 八角
13
3731
4

七夕志おき

歌川国貞画

七夕志おき

七福神
七福上
七福下
柳亭種彦作
梅蹄國貞畫

門 へ13
號 3731
卷 4

俳諧あらしはかり

柳亭人笑 作
柳亭種彦 撰
画 七竜 下

八九とも有定を七ゝ定しゝ不測なれど先世の始ゝ神世七代天ゝ十政北斗七星國ゝ畿外を七道ゝ分つ人日ゝ正月七日安産祝ふゝ七夜ゝ七戈の著袴を深る初ゝ集る七所鉄將來有卦ゝ七年七福神給ふ財ゝ七寶充満甲子の供物も七色菓子浦ゝ七浦七笑壽鯨の大漁ゝ七里潤澤疥癬の傳染ゝ七筵七布を空て君を待べ蚊屋の外ゝて七の鐘七坊主七小町瓶を傾る七人猩々釜を沸湯て手家の七事七種の盃置箱狹子の七道具と箒ゝ七日七夜さ指を折力車ゝ七車積とる尽ね七の數是皆七ゝ限らねを七と定める古人の料見解れ車ゝ七ゝ不思議ゝ七奇七編を今年の秋七月七日棚機の手向の歌をかく次手ゝ不圖筆を把初ゝ

乙丑中元前一日脱藁
丁卯始春發市

柳亭種彦

木邉須臭穴ら女禮

多岐都比賣命

種彦作
國貞画

三

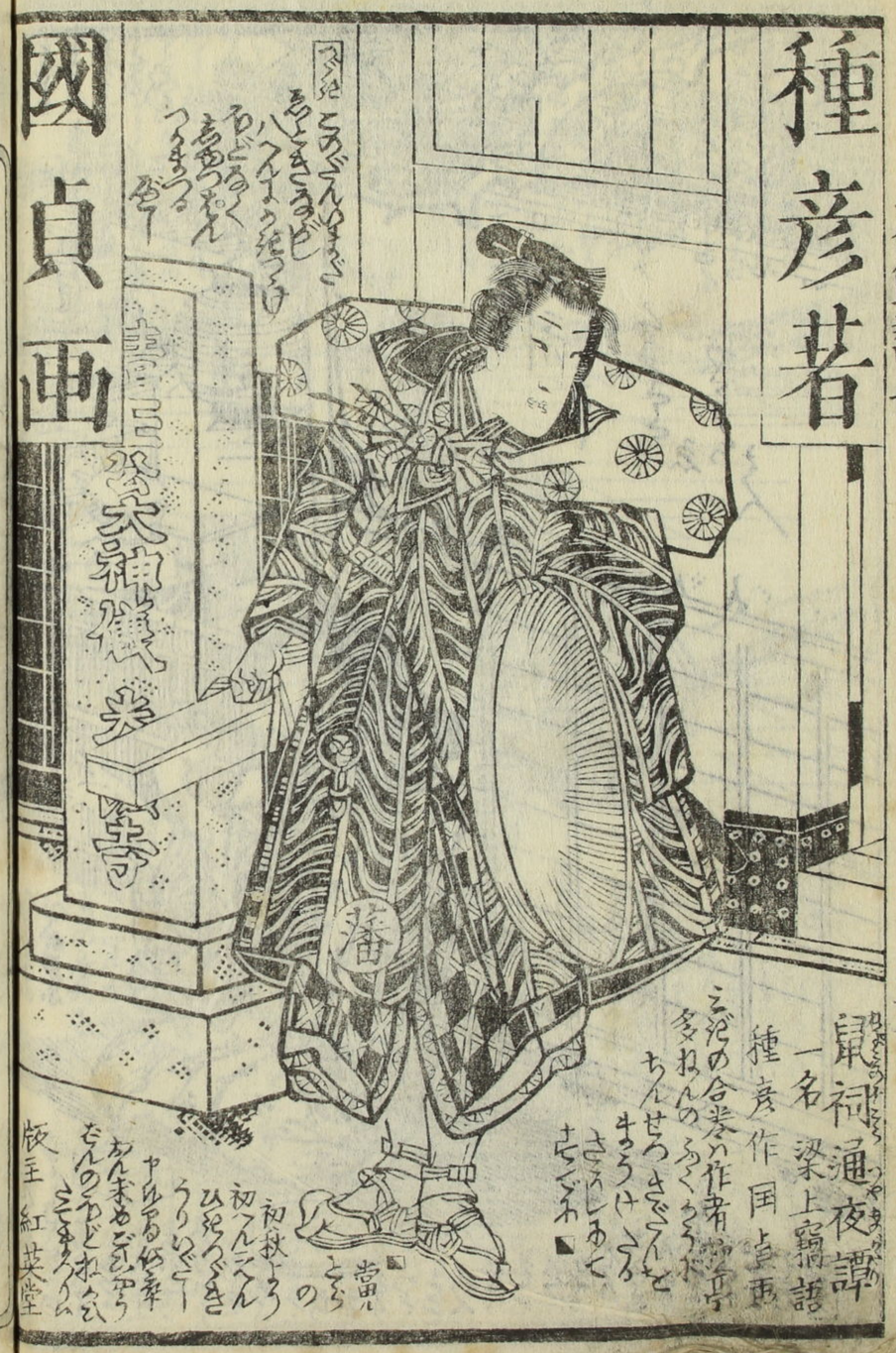
味
禮

善悪詩七
十六

善悪詩七
十七

種彦著

國貞画



鼠祠通夜譚

一名 梁上竊語

種彦作国貞画

こだの合巻の作者 柳亭
多ねんのふくろうが
ちんせつさぐんを
ものうけうる
さいしゆと
ちぐわ

當九
の
初秋よう
初つんこへん
ひるのぐき
うりぐー
ヤルるる仕事
あんまめこだかう
ちんのつわどれ
こまもろくん

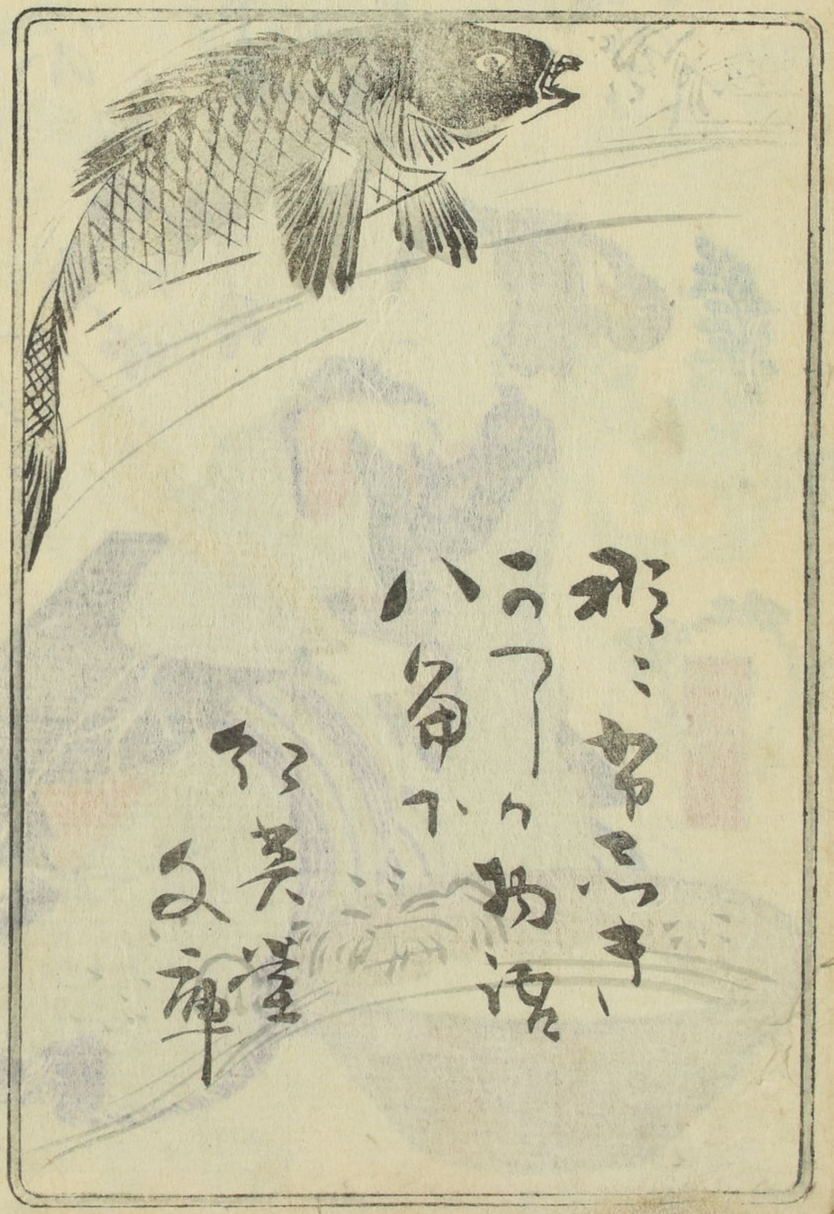
版主 紅英堂

七 不ちゝ手 八角 上

御ふ
つ
ま
ま

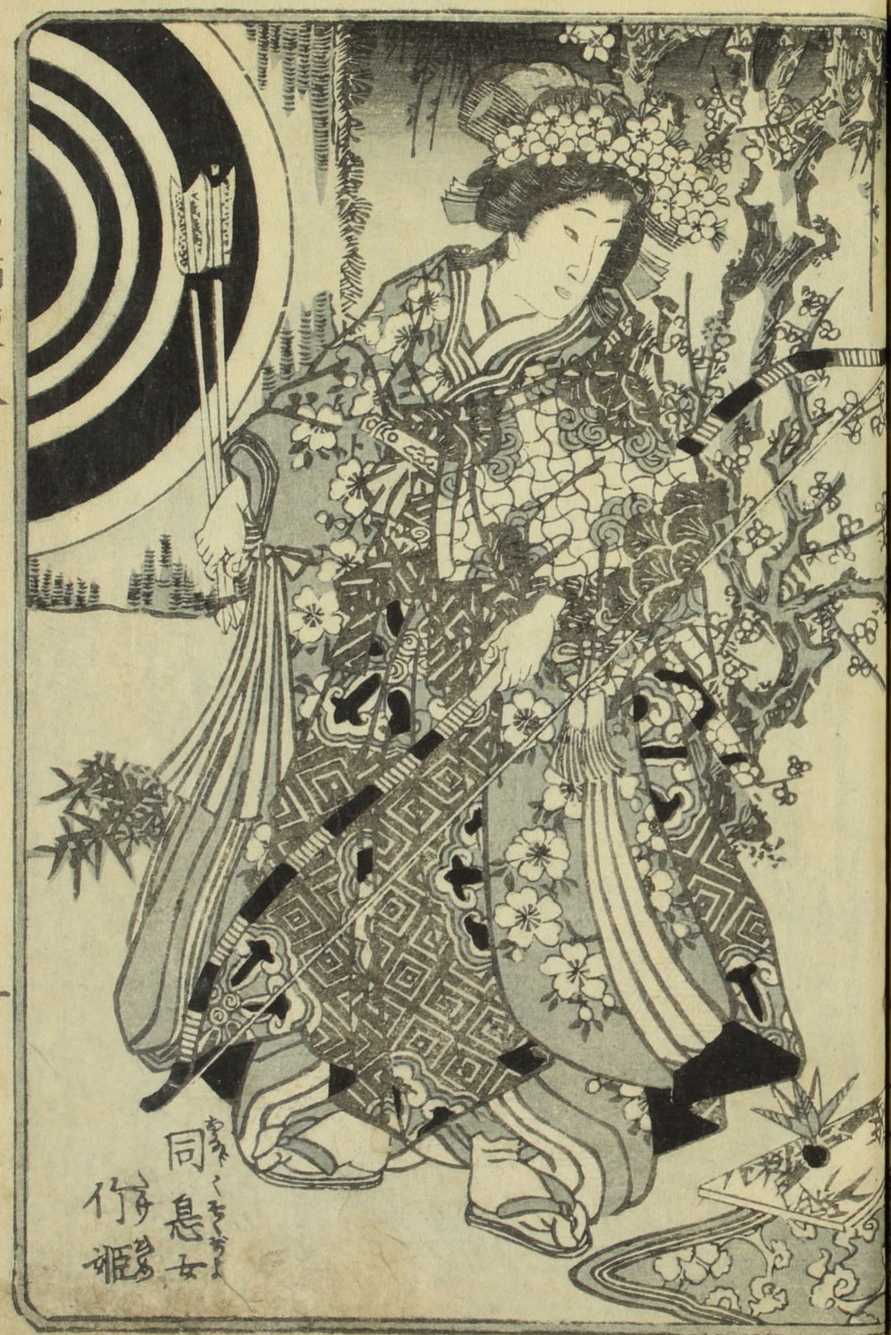
ふ
ま
ま
ま

七不思議
葛飾
語
八編下
八編上



利根な者ゞ馬鹿なやつゝい頭巾を脱ぐ實名あり馬鹿な者の利根なやつゝい他いろ〳〵ゞ吾著述博識めか〳〵虚氣ゞ〳〵我い化こと思ふとも釣狐の叔父坊主戯作の輪宛よ羅てゐていろゝと學者の顔〳〵こそ誰れ欺さまし〳〵べき譬へば男の女容い男と思ふゞと春情動き女ゞ奴よ剃毀し犢鼻褌でい真平ゐ〳〵ゞし三十年の昔々京都ふお山重こそ野郎頭よ簪さ〳〵て内輪歩行の壮夫あり〳〵其後和屋よ武三さんこて男をゝ〳〵ゞ側目〳〵て語言婦よ露異ら〳〵ゞ是等も又ゝ〳〵ゞ〳〵ゞ近頃女の男とゝ〳〵ゞもあれゞ惇ゞ〳〵ゞいろ〳〵ゞ取交ゝゝの物語古〳〵れゞ復書出ゞ困ゞ男女の比諭よ及べゞ末繪草紙よ見馴ぬこて半之愚を半月の妖物ゆ〳〵て女男の對よ〳〵ゞ餘りゆ馬鹿ら〳〵面目ゐゝ顔を包む頭巾こそ被らゝ〳〵ゞけれ

慶應丁卯開版

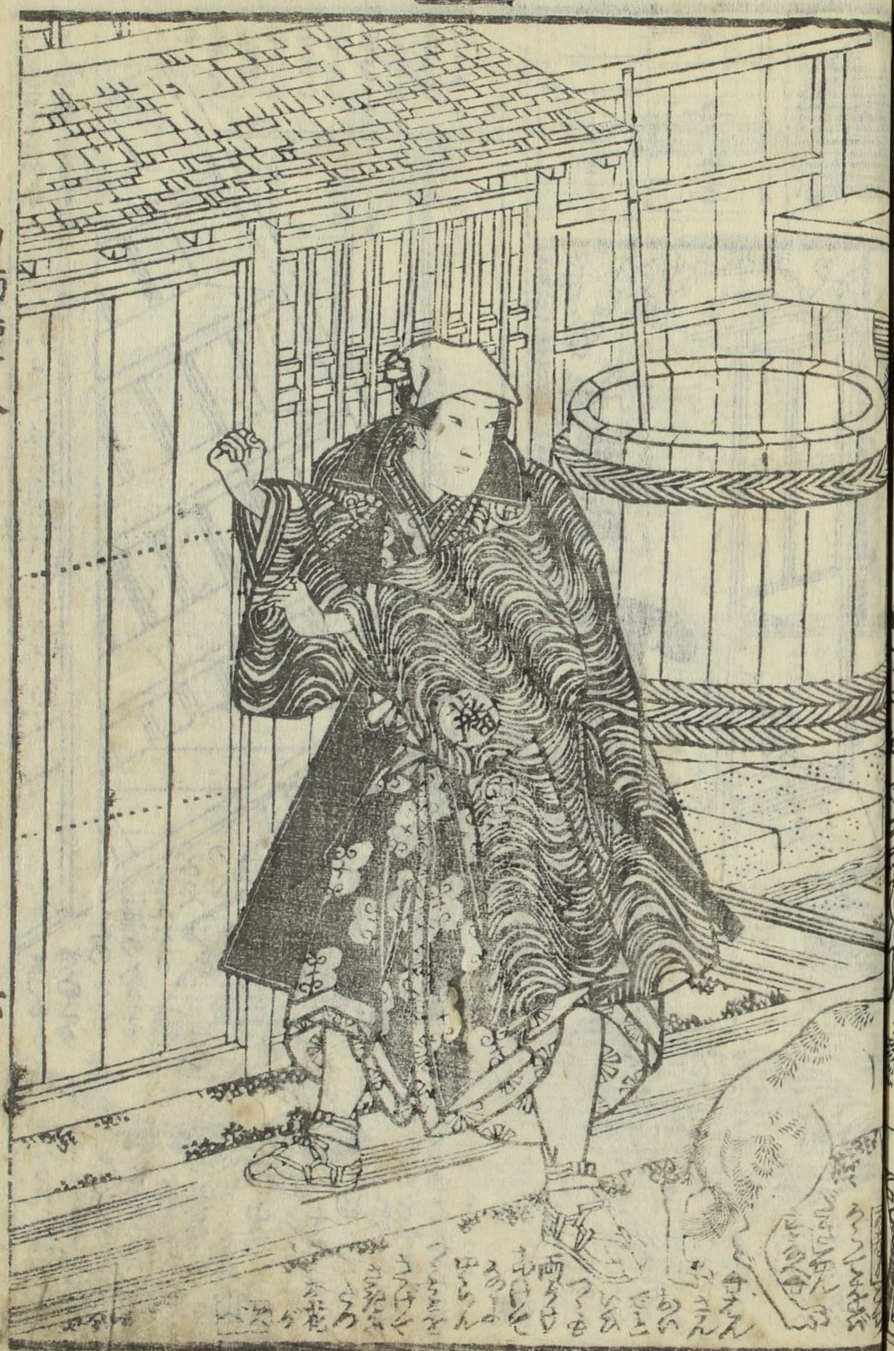


同息女
竹姫

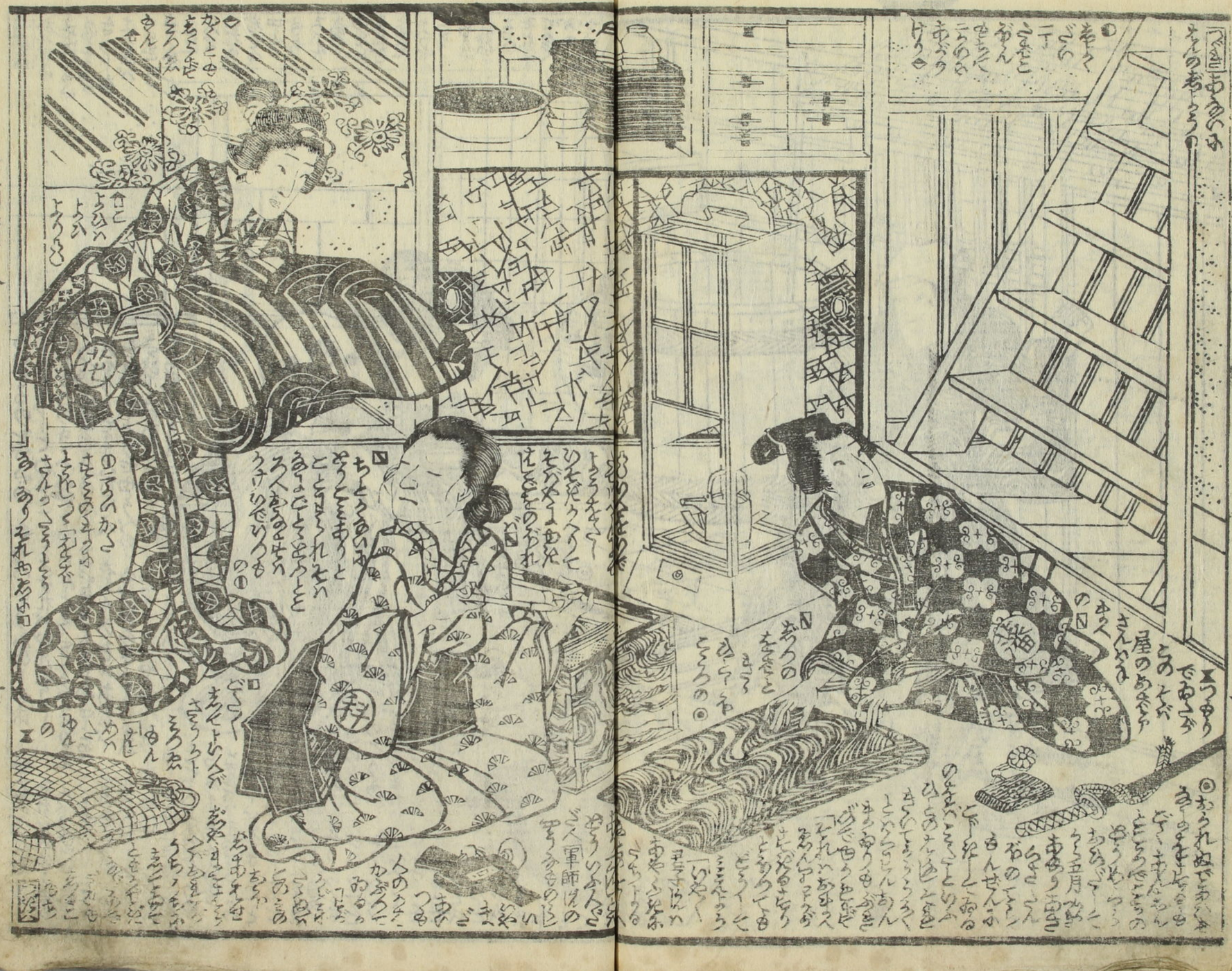
石濱城主千葉家養子
多與二郎
和胤

賛の白い
古人の
おもかげ

蔵牛



科
花



そばどんぶん

北武士の名も
恵ぶ先の後ふ

科
玉
花

綱鑑易知録
三礼左疏
探到毛夷地尽頭窮
庐池誓禍魔来
幸酬蓬矢四方志願
雨中天凡人域外

ようふ
りうを
をとこもの
さそうゆも
ごろごろちろ
ちろごろ〳〵◇
◇ちろさ
うをを
のこ
うろ
こび
あそんで
よろふりさ
ごろ〳〵も
ゆとんだ
ものそもと
かのうそ
ごろ〳〵

ごんぞの
ひとろ〳〵

白

竹

慶應三丁卯年陽春開板摽目

七夕ものがたり　六編　柳亭種彦作
九編　梅蝶樓國貞画

室町源氏胡蝶卷　九編　種彦作
十一編　國貞画

偽情談戀の畦倉　四編　如泉作
大尾　國貞画

童謡妙々車　五編　種彦作
十三編　國貞画

薄俤幻日記　十六編　春水作
十七編　國貞画

寄海四國聞書　十編　種彦作
十二編　國貞画

明鴉黒画逆襲福　十二編　種彦作
十四編　國貞画

花封茗日玉章　一編　種彦作
大尾　國貞画

八犬傳犬の双紙　四十八編　柳亭種彦
四十九編　國貞画

地本双紙問屋
南傳馬町壹丁目
蔦屋吉蔵板